

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ

2020年12月1日放送分

(北目町／北目町通 五橋通／上染師町)

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱=辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。放送と合わせてお楽しみください！

- 新型コロナの感染拡大により「奥州街道を江戸へ」シリーズは、半年間の街歩き取材中止を余儀なくされました。久々の再開は、北目町の複雑な交差点からです。ここ青い(笑)コンビニの前に「北目町／北目町通」の辻標があります。いや～半年ぶりの辻標に感激！
- そういえば「芭蕉の辻」に、江戸との距離を記した道路元標がありますが、木村さんによればあれは本来ここ北目町にあったものを何かの間違い、手違いで「芭蕉の辻」に再現してしまったものだそうです。北目町は奥州街道でも重要な場所だったことが分かりますね。
- 南に歩くと、豆腐会館の建物そばに「五橋通／上染師町」を発見。水がなくては染物はできません。この辺は用水が整備されていたことが、昔の絵図からも分かります。何と、橋が5本かかっていたことが確認できるとか。それで「五橋」というわけですね！
- ちなみに、上染師町の染物屋さんは武士を相手に高級品の商いを主に行なっていましたが、明治維新の激動に耐えることができず衰えてしました。若林区に南染師町という地名がありますが、あちらは庶民を相手にたくましく商売を行なっており、今に至るまで染物の伝統を受け継いでいます。何がどう影響するか、時代の流れというのは分からぬものです。
- <文・佐々木淳吾>